

# 第73回愛知学院大学モーニングセミナー

## 「落語を楽しもう!!!」

— 朝から落語を聴いて一日中笑って過ごしませんか! —

南山大学 人文学部

教授 安田 文吉

南山大学 落語研究会

恋勢家 といる

《演目 千物箱》

花の家 小みね

《演目 道具屋》



平成24年4月10日

# 落語とは 概要

日本に伝わる話芸の一つ。何人かの登場人物や状況描写などすべてを一人の話者が行う。二人（若しくはそれ以上）の掛け合いで物語が進行することが多い。話者は高座と呼ばれる少し高い位置に座す。そして、聴衆もしくは観客に向かい語り、しぐさや声音を上手に使いながら話を聞かせ、笑いや涙を誘う演芸である。

# 歴史

笑い話を初めて職能としたのは室町末期の戦国大名が抱えた御伽衆といわれる。江戸時代になり、安楽庵策伝(1642年没)らの御伽衆が活躍するようになり、所司代の板倉重宗の招きで口演した小咄をまとめて『醒睡笑』という書物として出版し、普及した。その後、落語は上方へと発展して行く。時代はとんで寛政十年(1789年)、江戸に三笑亭歌楽、三遊亭円生、上方に桂文治が登場し、定席が設けられるようになって落語は一気に広まった。

**明治時代：東京では三遊亭円朝を中心とする三遊派と柳亭燕枝を中心とする柳派が競いあう。**

**大正時代：三代目柳家小さんが出て、東京の落語を支えた。**

**上方では明治二、三十年代に全盛期を迎えるが、二代目桂文枝らがなくなると、漫才や音曲、奇術を中心とした色物本位の興行が人気となる。**

**大正十五年(昭和元年)には花月亭の吉本泰三が独占体制を築いて、上方落語は漫才の添え物となった。**

**昭和になると、東京でも小会派が乱立した。**

**しかし、昭和8年に古典派の「落語協会」と新作派の「落語芸術協会」が統合され、現在の体制となる。戦後は、古今亭志ん生、三遊亭円生、三遊亭金馬、林家正蔵、柳家小さんなどの古典派が活躍して昭和三、四十年代にブームを築いた。**

**上方では、まず二代目桂春団、続いて五代目笑福亭松鶴が昭和の落語界を一手に支え、何とか火を絶やさずに戦後へとつないだ。**

**昭和三十二年には「上方落語協会」が結成され、上方落語四天王と呼ばれる、笑福亭松鶴、桂米朝、桂春団治、桂文枝の活躍で上方落語は息を吹き返した。**

# 「古典落語」と「新作落語」

落語っていくつぐらいあるの？ 総数 2292演目

あ行:「鮑のし」等385演目、か行:「火焰太鼓」等449演目  
さ行:「作生(千物箱)」等415演目、た行:「道具屋」等325演目  
な行:「ねぎまの殿様」等148演目、は行:「バスガール」等280演目、  
ま行:「まんじゅう怖い」など132演目、や行:「やかん」等119演目  
ら行:「ラブレター」等27演目、わ行:「我忘れ」等12演目

大別すると「古典落語」と「新作落語(創作落語)」

亡くなった古今亭今輔師匠は、「古典落語も、  
できたときは新作でした」と申していました。

# 落語には、さまざまな「オチ」がある

落語とは何でしょう。

オチがある噺はすべて落語といえます。

## オチの分類

「考えオチ」、「地口オチ」、「廻りオチ」、  
「逆さオチ」、「見立てオチ」、「トントンオチ」、  
「はしごオチ」、「仕込みオチ」、「間抜けオチ」、  
「しぐさオチ」、「ぶっつけオチ」、「とたんオチ」  
などなど。

# 噺の「内容」や「主人公」も、さまざま

## 噺の内容で分類

町人が主役の噺、武士が主役の噺、与太郎噺、旅の噺、名人が主役の噺、酒飲みの噺、廓噺、人情噺、などなど。

落語は、聴く人が情景を豊かに想像し、自由に楽しむもの。

笑いのツボにはまるオチや、気になる主人公など、好みにぴったりの噺を探してませんか？

# ～干物箱(作生)のあらすじ～

落語の世界の道楽と申しますと「買う、打つ、飲む」の3道楽といわれております。

干物箱は、このような道楽に明け暮れる商人の息子が、父の勘当から免れるために、声真似が得意な善公に自分の身代わりになってもらい遊びに行こうと試みるお噺です。

恋勢家 といる

上村 明里(かみむら あかり)

南山大学法学部法律学科3年

愛知県立松蔭高校出身



## ～道具屋のあらすじ～

アホな男が、おじさんに世話をされて道具屋を開くことになった。  
ガラクタものばかりだが、上手く言って売らなければならない。  
この男にそんなことが出来るはずもなく、来る客来る客逃げてしまふ。

やっとお客さんを捕まえて...

いろいろな客とのやりとりが楽しいお喋りです。

花の家 小みね

野々山 綾華(ののやま あやか)

南山大学人文学部心理人間学科3年

市立名東高校出身



花  
の  
家  
小  
み  
ね